

# 民主島根

2016年  
**4.24**  
第1261号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 九州地方地震災害の被災者支援へ 党県委が救援基金を呼びかける

### 遠藤氏、尾村県議、後藤県委員長ら先頭に



救援基金を呼びかける（右から）尾村県議、後藤県委員長ら（松江市）

日本共産党島根県委員会は18日、JR松江駅前前で熊本、大分両県を中心に被害が広域に及んでいる九州地方地震の救援基金を呼びかけました。遠藤秀和党県政策委員長、尾村利成県議、後藤勝彦県委員長、上代善雄県書記長らが「被災者支援に全力で取り組みます。基金は関係自治体に届け、すべてを被災者支援にあてます」などと協力を呼びかけると、「役立てて下さい」と募金を託す人が相次ぎました。「今は手持ちのお金がないけど、今度はいつ募金の呼びかけに来られるか」とたずねる女性も



いました。県党は水や食料などの高校生への政治的権利の保障を県議団、民青が県教育長に申し入れ

支援物資を募り、被災地に届ける計画です。

## 高校生の政治的権利の保障を 県議団、民青が県教育長に申し入れ

日本共産党県議団と民青同盟県委員会は15日、鴨木朗県教育長に、

高校生への政治的諸権利を保障するよう申し入れました。尾村利成、大國陽介両県議、村上万里民青県委員長、松江市議団ら7氏が出席。（写真）

憲法や子どもの権利条約に基づき、生徒の基本的な人権を守り保障することや政治について高校生が自由に語り、行動できることを最大限保障することなどを求めました。村上氏は「政治的中立の考えに縛られ、個人の考えが制約されてはならない。高校生が自由に発言できる教育を」と述べ、吉井安見民青県委員長は「高校生の選挙への関心は高い。教師や高校生が萎縮し合ったりすることがないようにしてほしい」と要望しました。



## 共産・民進・社民が合同街頭宣伝 県庁前で「戦争法廃止」の訴え

ロータリーで行われました。日本共産党県委員副委員長尾村利成、安倍政争法廃止、民進党、社民党が19日、県庁前

## 川本町議選の結果― 山口氏初当選で党議席回復

17日投開票の川本町議選（定数9）で、日本共産党の山口節雄氏（新）は186票で9位当選し、8年ぶりに党議席を回復しました。山口氏は選挙期間中、「安倍暴走政治に川本からノーの声を」と強調し、

▽国保税1世帯3万円の引き下げ▽子どもの医療費を中学卒業まで完全無料化、介護サービスの充実▽住宅リフォーム助成制度の拡充▽「中小企業振興条例」制定などの政策を訴えてきたといま

## 力あわせ、未来ひらく。 日本共産党演説会

5月15日(日)

●午前10時30分～  
出雲市・朱鷺（とき）会館

●午後2時～  
松江市・松江テルサホール

弁士

紙智子参院議員  
春名なおあき元衆院議員  
遠藤秀和党県政策委員長



5月22日(日)

●午後2時～  
浜田市・いわみーる体育室

弁士

大平喜信衆院議員  
春名なおあき元衆院議員  
遠藤秀和党県政策委員長



## 鼓動

先日、入院していた福井の母が89歳の生涯を終えた。2月には大東の義父が88歳で急死した。相ついだ身内の不幸に「この世に生あるものは必ず死んでゆく。わが身もまた同じ」との思いを強くした▼母の想い出は、高校卒業までの共に暮らした18年間でしかなかった。通夜の席で、物心ついたときに、母からよく聞かされた2つの出来事が脳裏をよぎり、母のありがたさを改めて思い起こし人知れず涙した▼ひとつは、1200gの超低体重児として産婆さんの手で産まれた時のことだった。戦後でもない頃で食料事情も悪く、医療も整っていない頃だっただけに、誰もが無事に育つだろうかと心配したという。産後、自らも体調がすぐれない中、懸命に赤子をいつくしむ母の姿がまぶたに浮かんだ▼もうひとつは、3歳の時に、母といっしょの帰り道、母がちよつと目を離したすきに、猛スピードで坂道を下りて来たオートバイに轢かれた時のことだった。三日三晩、生死の境を彷徨いながらもなんとか助かった。母が必死の思いで懸命に看病してくれたおかげで思う▼当然のことながら、生まれた時のことは記憶に全くない。事故についても、坂の上から来るオートバイをかすかに覚えていただけである。しかし、あえて母が話してくれた真意は、人が生きていくには周りの多くの人の支えがあることを片時も忘れるなということだったと思う▼まさに、65歳の元気な今の自分があるのは、この幼い頃の、母の献身的な努力と子を守る愛の深さがあったらこそである。「親孝行したいと思うときは親はなし」。昔の人はよく言ったものだとしみじみ思う今日このごろである。（吉）